



衆議院議員あべともこ
プロフィール

神奈川県 12 区（藤沢市・寒川町）
当選 7 回、東京大学医学部卒業、
小児科医、あべともこどもクリ
ニック（湘南台）理事長
現在、内閣委員会筆頭理事・予算
委員会委員



https://twitter.com/abe_tomoko



<https://www.facebook.com/abetomoko.jp>

あべともこ

検索

あべともこと共に歩む会後
援会入会のご案内及びボラ
ンティアスタッフ募集中！

特定の企業や団体などに依
存しないあべともこの活動
は、後援会の年会費やカンパ
によって支えられています。
あべともこの活動にご支援頂
ける方は、お気軽に事務所
にお問い合わせください。

立憲民主党神奈川県連

〒231-0012

横浜市中区相生町 4-69-4F

TEL 045-228-8591

FAX 045-228-8592

◆汚染水の海洋放出は論外！

9月10日、議員連盟「原発ゼロの会」と有識者で福島第一原発を視察しました。事故処理に伴う作業員の安全管理を含めて、構内17カ所を確認しました。メルトダウンした燃料の取り出し方は未だ決まらず、地下に留まったまま。侵入する地下水を高濃度に汚染しています。大金をかけて建設・稼働中の凍土壁は水を完全に止められませんでした。除去装置で取り除ける放射性物質は62種類。努力は続いています。トリチウムは分離できず、通称「トリチウム水」の保管タンクは増加中です。置き場には限界があるとして東電や経産省は海洋放出を検討。ところが8月末、実はストロンチウムなどの核種も取り除けてはいないと判明。多くの専門家が地上での長期保管を求めています。現場では、事故直後に汚染水漏れが発覚した組み立て型のタンクから溶接型タンクに入替中。組み立て型タンクの解体現場と保管場所も確認しました。

原発事故から7年半。増える汚染水、作業員被ばく労災認定



汚染水タンクの解体場所（外は0.9μSv）を視察

◆肺がんで労災認定、初の死亡事例

8月末には事故直後の緊急作業に従事した作業員が肺がんで労災認定されました。労災認定は5例目（白血病3件、甲状腺がん1件）。初の死亡事例とのこと。緊急作業には2万人が従事。影響が明らかになるのはこれからです。

◆避難指示区域に作業員750人生活

事故の影響は原発構内に留まりません。視察の拠点（東電の旧エネルギー館）は避難指示が昨年、一部解除された富岡町にありますが、帰還者は700人余。1万6千人いた人口は回復していません。その隣の大熊町の避難指示は未解除。その大川原地区は本来、宿泊が許されない「居住制限地区」であるにも関わらず、750人もの作業員が「渋滞を避ける」理由で、町と内閣府の原子力災害本部が例外的に認めて建設されたアパートに暮らし、原発事故処理に通っています。同町では、それとは別に「居住制限地区」と「帰還困難区域」にそれぞれ新たな町づくり計画を進めようとしています。一方で大熊町と隣の双葉町では福島県全土から2200立米もの除染土壌を運び込んで処理する「中間貯蔵施設」の建設が始まっています。汚染地域への「帰還」を急がせるのは一体誰のためか。多くの疑問が持ち上がった視察でした。